

「駅前放置自転車の現況と対策－平成23年度調査－」について

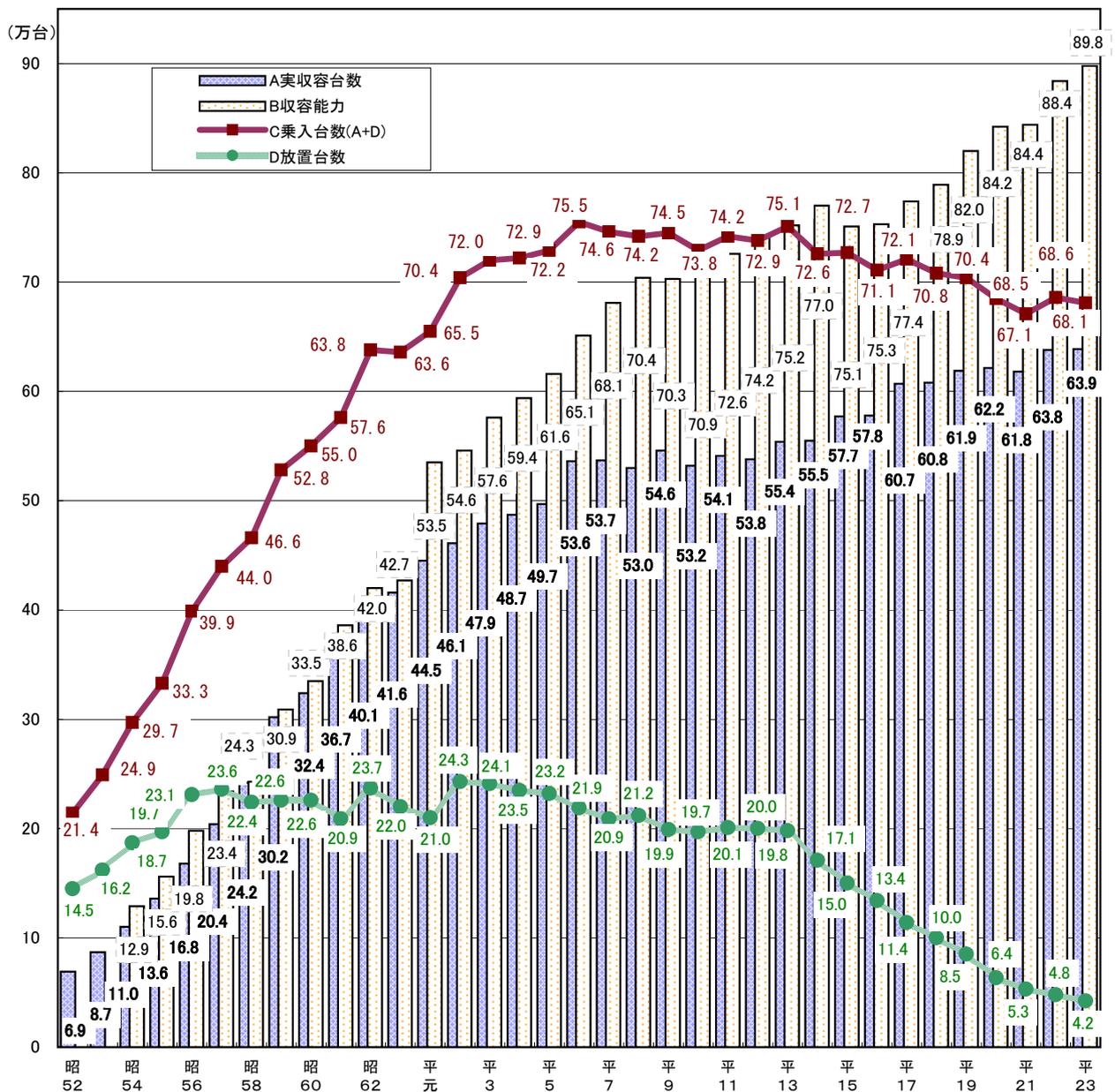
－ 調査結果の概要 －

1 駅周辺の放置自転車等の現況(平成23年10月)

駅周辺の放置自転車等の台数は、区市町村等の継続した放置自転車対策(自転車等駐車場の整備、放置自転車の撤去等)により42,311台(前年比5,779台減少)となり、調査開始(昭和52年度)以降の過去最少値を8年連続で更新した。

- ※ 自転車等とは、自転車、原動機付自転車及び自動二輪車をいう。
- ※ 駅周辺とは、原則として、鉄道駅から概ね半径500m以内の区域をいう。
- ※ 自転車等の放置とは、自転車等が自転車等駐車場以外の公共の場所に置かれ、当該自転車等の利用者が当該自転車等を離れて直ちに移動することができない状態をいう。
- ※ 放置自転車等の台数は、原則として1駅につき、自転車については100台以上、原付・自動二輪車については合わせて50台以上の場合のみ集計した。

【図－1】 放置台数・実収容台数・収容可能台数・乗入台数推移



※ 昭和52年度から隔年で内閣府(旧総理府)が全国調査を実施
 全国調査が実施されない年は都が単独で調査を実施

2 放置自転車等の減少へ向けた主な対策

放置自転車対策として、自転車等駐車場の設置、放置自転車等の整理・撤去、放置防止の啓発活動に取り組み、区市町村では対策費として154.8億円(平成22年度決算額)が支出された。

(1) 自転車等駐車場の設置等

駅周辺における適地の確保が困難な中、自転車等駐車場の設置及び自転車等駐車場への誘導等が進められた。

(2) 放置自転車等の整理・撤去等

放置自転車等の整理・撤去をはじめ、保管、持ち主への返還、処分等が行われた。

(3) 放置防止に向けた啓発

毎年10月、都は区市町村及び関係団体とともに、「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」を実施し、一斉に広報活動、放置自転車等の撤去活動等を実施している。平成23年度も区市町村や鉄道事業者等を中心に地元関係者と連携した啓発活動や撤去活動を実施した。

3 駅周辺の放置自転車等の多い駅と乗入台数の多い駅(平成23年10月)

(1) 駅周辺の放置自転車等の多い駅

駅周辺の放置自転車等の多い駅は、①赤羽駅(北区) 838台、②東京駅(千代田区と中央区) 830台、③新小岩駅(葛飾区) 820台であった。

[参考] 平成22年度

①赤羽駅 922台、②蒲田駅(大田区) 885台、③東京駅 878台

(2) 駅周辺への乗入台数の多い駅

乗入台数の多い駅は、①三鷹駅(三鷹市と武蔵野市) 12,018台、②蒲田駅 10,323台、③立川駅(立川市) 9,875台の順であった。

[参考] 平成22年度

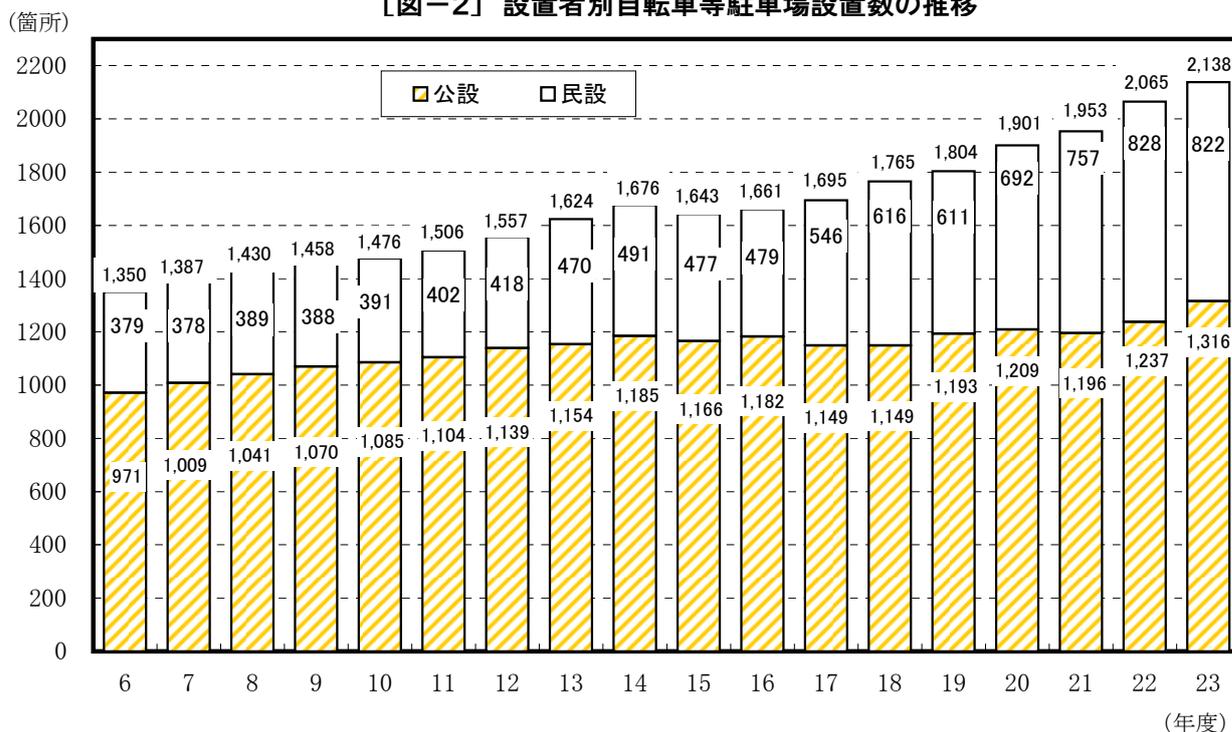
①蒲田駅 12,471台、②三鷹駅 12,273台、③吉祥寺駅(武蔵野市) 10,040台

※ 乗入台数とは、調査時における放置台数と自転車等駐車場の実収容台数の合計数をいう。

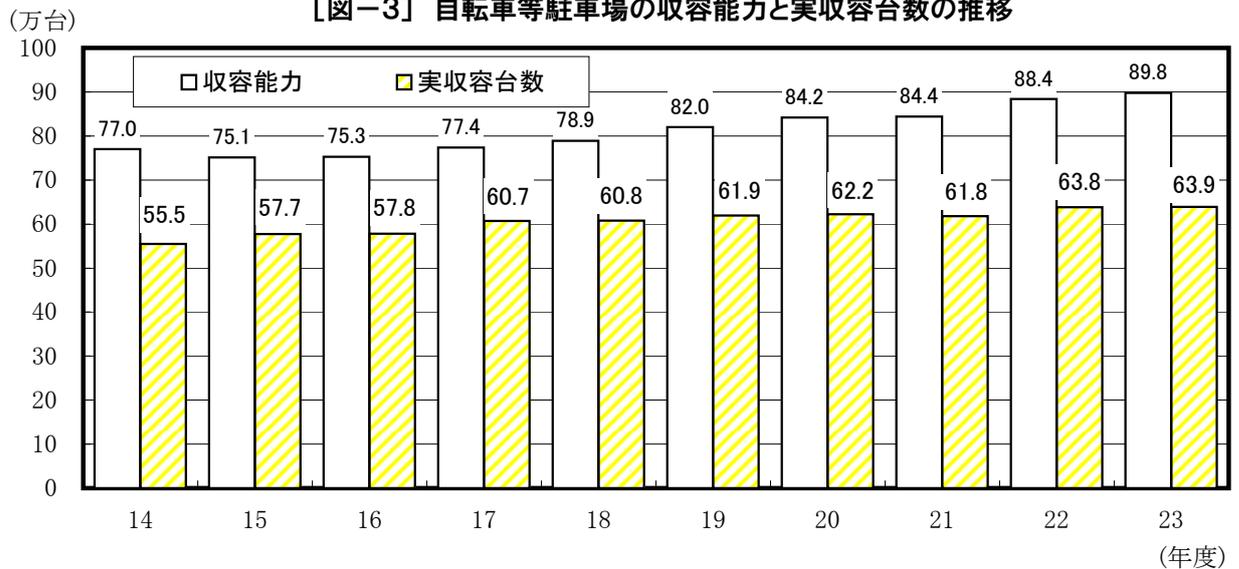
4 自転車等駐車場の設置状況(平成23年8月末日現在)

- ・駅周辺の自転車等駐車場は、2,138施設(前年度比73施設増加)
- ・駅周辺の自転車等駐車場の収容能力は、897,985台(前年度比14,141台増加)
- ・調査時における自転車等駐車場の実収容台数は、638,668台(前年度比250台増加)

[図-2] 設置者別自転車等駐車場設置数の推移



〔図-3〕 自転車等駐車場の収容能力と実収容台数の推移

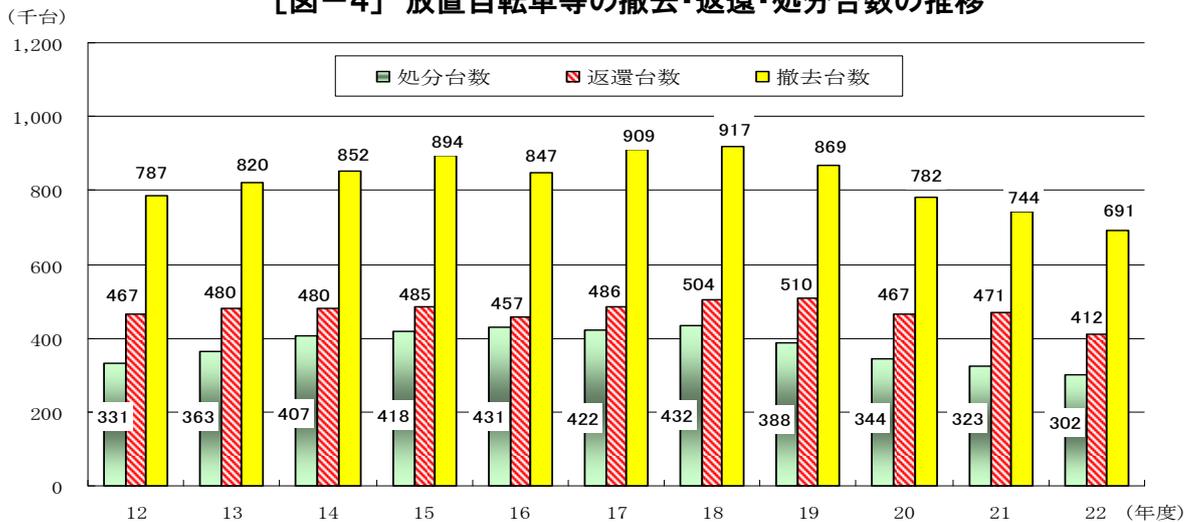


5 放置自転車等の撤去、処分等の状況(平成22年度)

- ・区市町村が撤去した放置自転車及び原動機付自転車は、690,880台(前年度比51,942台減少)
- ・持ち主に返還された台数は412,199台(平成21年度中に撤去されたものを含む。)
- ・区市町村が処分した台数は301,673台(粗大ごみとして扱ったものを含む。)

※ 処分の内訳は、廃棄処分が147,370台(48.9%)、リサイクル用途に供されたものが 134,656台(44.6%)、鉄くずとして資源売却されたものが19,647台(6.5%)であった。

〔図-4〕 放置自転車等の撤去・返還・処分台数の推移



〔図-5〕 撤去自転車及び原動機付自転車の処分内訳

